

⑱青谷高校ソーシャルアクション同好会(鳥取市)

「はだしで歩ける海へ」をモットーに、鳥取市青谷町青谷の青谷高1、2年生13人が、ごみのない海を目指して海岸清掃や啓発活動に取り組んでいる。

授業で行った海岸清掃活動を発展させ、現在は週に1回、放課後に活動する。地域のひと協力して、楽しみながらごみ拾いをすることを大切にしている。

昨年10月には船磯海岸(同市気高町八束水)で、海岸清掃と地引き網を組み合わせた「とっとり環境地



ごみのないきれいな海へ



話し合いながらメッセージ作品制作を進める生徒ら

引き網」イベントを開催。地元の保育園児や小学生などが参加し、約230人で138袋分のごみを集めた。取り組みが評価され、令和6年度「鳥取県ミラ・クル・とっとり運動・SDGs活動表彰」学生部門(高校生の部)で最優秀賞を受賞した。小竹花実さん(17)

「2年」は「海外の観光客にも体験してもらい、多くの人にごみ拾いの楽しさと大切さを伝えたい」と話す。今月22、23日には、鳥取砂丘ビクターセンター(同市福部町湯山)で、活動発表とメッセージ作品の展示を予定している。メッセージ作品は、約1平方メートルの板にペットボトルや漁網などの海ごみを魚の形に貼り付けたもの。海に流出したプラスチックごみが微細なマイクロプラスチックとなって魚が食べてしまう現状や、魚を食べる人間にも悪影響があることを伝える。

山本柚花部長(17)「同は「海ごみで苦しむ生き物たちを助けて始めた。自分たちの力で海をきれいにできていると実感している」と力を込める。